

2025 年 4 月 25 日

J R 東海（株）中央新幹線長野工事事務所
責任者様

4 月 23 日開催の住民説明会で「赤旗」記者だけ入場拒否をした 貴事務所の対応に抗議し改善を求めます

日本共産党飯田下伊那地区委員会

委員長 後藤 荘一

飯田市上郷別府 16-6

電話 0265（22）3552

貴社事務所におかれましては、日頃よりリニア中央新幹線工事の安全確保と関係地域とのコミュニケーションに尽力し、住民への説明を公開、非公開など様々な形で重ねておられていることと思われまます。

4 月 23 日、飯田市上郷地域の住民を対象に市上郷公民館で開催された住民説明会で、「しんぶん赤旗」の水野力夫記者が入場拒否され、場外での取材とならざるを得なかったことがありました。「赤旗」記者だけ入場させなかった対応に強く抗議します。

この日の住民説明会は、要対策土の使用について県の助言を踏まえ、住民により具体的な内容を説明するために開催されました。上郷地区での要対策土使用に関しては、初めて一般メディアに広く告知されて開催されました。

水野記者は、大鹿村で行われた工事説明会や阿部守一県知事と丹羽俊介社長のトップ会談（昨年 4 月）の取材を重ねており、これまで取材で入場を拒否されたことはありませんでした。この日は、受付で「赤旗」記者だと分かれると、J R 東海の職員 2 名が駆けつけ「今日は県のレベルで日頃からお付き合いしているメディアに限っています」と話しがあり、入場を拒まれました。会開始と同時に扉が閉まったため、水野記者は扉に耳をあてて取材せざるを得ませんでした。水野記者によると、職員とのやりとりで長野県が記者クラブ制をとっておらず県レベルでは報道を選別していないことを J R 職員は承知していたといひます。

この日の貴事務所の対応は、情報公開、報道参加のオープン化の流れに逆行しており、昨年の丹羽社長と阿部知事のトップ会談で、工事自体の安全確保と地域とのコミュニケーションについて意見交換した際、丹羽社長が「地域とのコミュニケーションでは、様々な形でふれあい、信頼関係を構築していくのは重要なことだ」と約束したことにも反しています。

「赤旗」は要対策土問題で、県駅関連工事への使用に不安の声をあげる住民の取り組みを継続して報道してきました。地域とのコミュニケーションでは欠かせないメディアの一つです。つきましては下記の点を求めます。

記

- 1、今後どのメディアにも平等に、「しんぶん赤旗」記者に対しても取材を認めること

以上